

どんぐり

実生

〒330-0042 さいたま市浦和区木崎3-1-1

埼玉県立浦和西高内 浦和西高斜面林友の会事務局 電話 048-831-4847

メール件名は「斜面林」と記入してください。

入会の申し込み、問い合わせメール 3220028501@jcom.home.ne.jp

『実生』投稿受付 ashinagako@gmail.com

ホームページ <http://unshamenrin.wix.com/un-shamenrin>

《11月12日》

活動内容 ①焼きいも大会

天 気： 晴れ

②斜面林や畑への腐葉土撒き

参加人数： 33名

晴れ 焼きいもには暑いぐらいの陽気です



URAWANISHI.SHAMENRIN

インスタグラム QR コード

① 焼きいも大会

有志の方がいつもより早く集合して、さつまいもなどを湿らせた新聞で包み、更にアルミホイルで包む作業をしました。今年はジャガイモ、りんご、バナナ、柿なども登場しました。

そして一番重要な焚き火は、斎藤会長はじめ近隣の会員が朝早くから火起こしました。

盛大な焼きいも大会が出来るのも縁の下の力持ちのお陰です。

焼けた頃に部活を終わった西高生がやってきて美味しそうに食べています。校長先生はじめ先生方、卒業生、PTAも一緒に食べています。

この光景を見るたびに、牧歌的でステキな高校だなあと思います。

今年は“さつまいもの収穫が少ない”、“焚き火の廃材が集まらない”など苦労がありました。

今後も焼きいも大会を継続出来る為に何かいいアイデアありますでしょうか？



激しい焚き火



焼きいも中



腐葉土を掘り



腐葉土を撒きに行く

② 斜面林や畑への腐葉土撒き

焼きいもが出来るまで斜面林や畑に腐葉土を撒く作業です。校舎裏の駐輪場の脇には落ち葉集積場が二つあり、片方は1年間かけて腐葉土にしたもの、もう片方は今年の落ち葉を集める場になっています。そこから腐葉土を掻き出し、リヤカーなどに乗せては斜面林や畑に撒きます。

今年も腐葉土の中からカブトムシの幼虫が出てきました。



焼きいも大会今昔

そもそもこの焼きいもっていつからですか？

10年くらい前、書道部の教員が部員と小規模な焼きいもをやっているのを見た生徒会の生徒が「いいな、私たちもやりたい」と言っていた。

生徒会担当教員と生徒会とで斜面林友の会に協力を求めたのが始まりです。

第1回は生徒会メンバーと数名の斜面林友の会会員のみでしたが、楽しかったそうです。

その後、斜面林友の会担当教員が美術部や生物部に声をかけて生徒会+美術部+生物部生徒による当日のお手伝いにも参加。

この焼きいもの光景を見て焚き火を知らない生徒がいることにも気づき、この行事は価値があると言つてくださった教員もいました。

火を起こすこと、さつまいもを育てるこことそこから参加できるともっと面白いと思うのですが…。

忙しい西高生なのでそこまでは希望しませんが、何か心に残ってくれると嬉しいなあと思っています。

今年の焼きいも大会の様子



〔おがキンちゃんのひとりごと〕

「生物とはなにか？」をここ数年考えて来ました。でも、未だ解りません。少し哲学的になりますが、まあ聞いて下さい。単純に、生き物を表現する言葉に「生物」と「生命」があります。でも、なんだか生物=生命ではなさうだと思いませんか。いわゆる「生物」なる言葉は、何となく外形つまり化石的なイメージがつきまとひ、私どもが「生きている」感覚とのずれを感じてしまいます。

私は、かつて授業で教科書の表紙に「生物」と書かれているが、これを「せいぶつ」と読まず、「生もの」と読むのだと教えてきました。サンマとアジの違いは、視覚的な姿形ではなく、味の違いが直感的に、種の違いの根拠になっていると思えるからです。生ものは生物と生命の中間にあるのでは、と思えるからです。私の感覚では「生物」は無味無臭の言葉に思えてなりません。

では、「生命」なる言葉はどうでしょう。「生命」は生きている実体を表現しているように思えます。

「私」がうごめくアメーバを見た時、“死んではない=生きている”と直感的に感じます。でも、生きているアメーバと私とのずれは覆うべくもありません。生きている実体が違い過ぎるからです。

「生命」とはとても抽象的で、すこぶる定義しづらいのです。

そうなると生命とは何でしょう。どうも、それは共通して「代謝」と「増殖」、それからそれを保障する「細胞構造」の三点セットが「生命」の実体ではないかと思うのです。その点で言えば、コロナウイルスを代表するウイルス類は細胞構造が無く代謝もありません。したがって私の定義では、ウイルスは生物もどきだと思います。

地球はでこぼこだらけだし、地軸が傾いていて太陽光は季節的増減と経度による温度差が非常に大きいのが特徴です。つまりあらゆる意味で段差があるのです。したがって、エネルギーも水も、この段差を伝って、川や滝のように下に流れて行きます。流れは、それ自体エネルギーですから、それを利用してダムやピストンのように活動しているのが生物なのではないでしょうか。

そう、段差がエネルギーの流れを作り、それを利用して生き、かつ自分と同じコピーを作っているのが生物ではないかと。（小川 均）

奥が深いです。生物が苦手な人もおがキン先生に習つていれば違っていたかも…

《2022年度の浦和西高斜面林友の会作業は、基本第2土曜日9:30~11:30に行います》

1月21日(土)、2月11日(土)、3月11日(土)集合は地学教室です。

↑第3土曜日です！(第2土曜日は大学共通テスト会場のため立入禁止)